

ぐるっけ

平成六年七月二十七日第三種郵便物認可  
平成十九年七月一日発行（毎月一回一日発行）  
第十四卷第三号（通巻第一五九号）

鈴



ぐるっけ

俳句雑誌

GLOCKE

第159号

7. 2007

蚊帳吊草

品川 鈴子

夫在りし歲月戻る梅漬けて

撥重き刻打ち太鼓梅雨の果て

新妻に匂と紫蘇揉みを手解きす

校了し紫蘇を揉みては寝つきよし



紫蘇揉めば指の関節炎忘る

紫蘇の灰汁絞り捨てねば紅を得ず

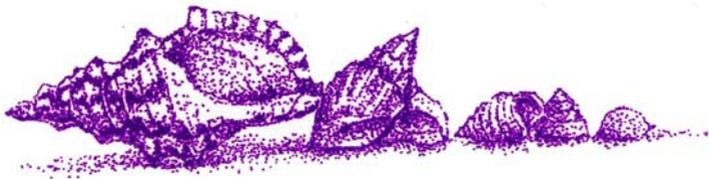
蚊帳吊草知らぬ大学生ばかり

遊ぶ子ら居らぬ辻々七夕竹

七夕紙にも絵更紗の筆さばき

悼 藤井美津子様

遺りたる更紗扇の香はミツコ



# 玉鈴吟

兵庫 荒木 治代

春炉焚き四方山話きりもなし  
この家も媪は元氣山笑ふ  
里うらら爺婆拾ふ送迎車  
春愁や今更どうにもならぬこと  
彼岸寒埋まることなき席一つ

大阪 池田 かよ

花棧敷どちやう掬ひの笄はたく  
虻せはし八重山吹に鉢合せ  
たんぼぼ黄眼底検査異変なし  
いかなごの千の尾頭ほがひ酒  
逝く春の講座案内は亡夫に宛

大阪 石橋 萬里

雀の子耳搔きほどの砂を蹴る  
沖霞掌に乗りさうな瀬戸の島  
象の皮たぶたぶ黄砂塗れなる  
一斉に啼くフラミンゴ風光る  
竿足して枝垂櫻のもつれ解く

愛知 市川十二代

西行の越えし峠の百千鳥  
燕来るペンキの匂ふ船着場  
縞馬の紳士気取りや風光る  
剪りくれし諸葛菜置く助手席に  
休日には水槽洗ひ春惜しむ

東京 市橋 章子

風眩し陶片で接ぐ登り窯  
上野駅花人ならむ遊び声  
鼓草お壺口にてかしまり  
夕霞鉄塔黒く林立す  
花筏川隅にきて寄り合へる

愛媛 今井 忍

塩田の古文書めくる蔵の冷え  
職決まり芽吹く城山かけ登る  
スイッチも入れず不貞寝の春炬燵  
春炬燵退職状に切手貼る  
一宿を乞ふて遍路は車庫の客

大阪 今谷 脩

一片の落花とどめる縁かな  
父母遙かうすくれなみの夏水仙  
一八や背骨一茎立てて見る  
欲<sup>ホシ</sup>深<sup>コ</sup>き色に咲きけり凌霄花  
神功<sup>カミキリ</sup>記の纜石やサングラス

香川 齋部 千里

反り強き城壁に脱ぐ蛇の衣  
花筏乱して鯉の寄り来たり  
露座仏を反り身で仰ぐ山若葉  
虎杖を折ればポキンと空に鳴る  
囀りの独り鳴きする落雲雀

兵庫 浮田 胤子

卒業す生涯会へぬ友もゐて  
春暁に三ヶ月淡く光り居り  
早咲き初む蕾の多き胡蝶蘭  
向ふ岸花に寄りそふ二人連  
桜守とんと桜の名を知らず

兵庫 馬越 幸子

百合あまた手向けて嵩のなき遺体  
膝に置く髑髏の数珠や目借時  
明きらかに卜音記号の蜷の道  
ままごとの母が抱きたる捨て子猫  
忌を修す経に春眠容赦なく

大阪 大井 邦子

がんばれと庭師の撫でる花古木  
剪定の長の仕込みは声荒く  
散るさくら堰に織り成す縞模様  
しきりなる落花が均す道の窪  
味噌汁の匂ひ戻りぬ残花道

東京 大川富美子

ふはふはと雲のあそべる仏生会  
たまさかの忘我といはむ花の山  
子を呼ぶに犬の名呼びびて四月馬鹿  
物陰に八方睨みの恋の猫  
雲取山都を抱きて木の芽晴

香川 大空 純子

町起す城の幟が堀に映え  
春泥を跳ね飛ばし子の帰宅する  
春の塵ボンネットは猫の近道  
蒲公英の絮彼の背に導かれ  
火葬場の煙を横切る初燕

兵庫 岡 有志

洋上のマストづたひに燕くる  
十本の支柱薄墨桜咲く  
讚美歌の裡に花散る墓一基  
「海ゆかば」拳を挙げて花筵  
日曜のひとり身の夜の豆ごはん

# 薬草歳時記

(二五八) ユウガオ (夕顔)

## 三 輪 慶 子

夕顔のひらきかかりて寝ふかく

杉田 久女

夕方に花を開く夕顔。この花を見たくて種を時きました  
が、この原稿には間に合いませんでした。困っていたとこ  
ろ、干瓢を作っている栃木県下野市の畑で花が咲き出した  
と聞いて、小山の先の小金井まで行ってきました。

行き来の激しい道路に面してユウガオ畑が広がっています。  
しつかりわらを敷いた畑にユウガオが蔓を伸ばして  
います。雄花の蕾は天に向かってつんつんとし、葉隠れの  
雌花の子房は既にゆたかに膨らんでいます。薬の上にはう  
す緑の若い実がころがっています。花が開く瞬間を見たく  
て行ったのですが、膨らんで今にも開きそうな五弁の花び  
らが開ききるまでには随分時間がかかりました。スケッチ  
の須賀悦子さんと一緒にカメラを構えていました。よう  
やく五時半頃から咲き始めました。お天気の良い日は開花

が遅くなるとか。午後八時ごろには満開となり朝日を浴び  
て十時頃萎むのだそうです。

ユウガオは古くに渡来したウリ科のつる性一年草で食用  
として栽培されています。果実を薄く剥いて干したものが  
干瓢です。交配後二十日ぐらいで収穫します。あまり大き  
くしないのは剥く機械に合わせてのことだそうです。四、  
五十日もたつて大きく充実したものはヒヨウタンと同じく  
フクベ細工に使われます。栃木県は干瓢の九十%を生産し  
ています。他の地方では自家用程度の栽培です。

栃木県の果実は茶釜のような長楕円形ですが、長野県や  
岩手県のは冬瓜のように長いのです。花は同じで実の  
長いものはユウガオ、丸いものをフクベ。フクベはユウガ  
オの変種です。(因みにヒヨウタンもユウガオの変種です  
が、その実は苦くて食べられません)

長い、或いは丸いこの果実と種子に薬効があります。生  
の果実を煎じて飲めば利尿剤になります。腫れ物、結石に  
も有効です。若い実を冬瓜のように料理します。又乾物の  
干瓢には植物繊維の他にカルシウム、カリウム、リン、鉄  
分が多く含まれる健康食品です。海苔巻きだけでなく、サ  
ラダや和え物に消化も良いのもっと使いたい食品です。

参考文献 「牧野和漢薬大図鑑」 関田稔監修北隆館

「中薬大辞典」 小学館

著者略歴 神戸薬科大学卒

ユウガオ〔ユウガオ属〕(うり科) 夕顔  
*Lagenaria siceraria* Standl. var. *hispida* Hara  
 (= *L. leucantha* Rusby var. *clavata* Makino)  
 (英) White Flower Gourd

雄花  
 午後5時半頃  
 開花

雌花  
 午後6時頃開花

雌花蕾

前日に  
 した雄花

須賀 悦子画



栃木県地方の夕顔の実(6月中旬)

岩手県 長野県地方の夕顔の実  
 薬用部分：果実・種子  
 実の断面図  
 E.S.

|             |              |              |                |              |               |               |              |              |                |
|-------------|--------------|--------------|----------------|--------------|---------------|---------------|--------------|--------------|----------------|
| 夕顔の傍へに屋台設へる | 一輪の夕顔の闇ありにけり | 夕顔や恋の遊びも終りとす | 夕顔に乳ふくますはしづかなり | 夕顔や揉み手に洗ふ箸の束 | 夕顔に舌焼くものを啜りおり | 夕顔のとどまりがたき花の数 | 夕顔のひらく光陰徐かなり | 夕顔のよ緑たまはりし文使 | 淋しくもまた夕顔のさかりかな |
| 塩出 眞一       | 深見けん二        | 加藤三七子        | 草間 時彦          | 鈴木真砂女        | 橋 閒石          | 中村 汀女         | 石田 波郷        | 高浜 虚子        | 夏目 漱石          |

# 鈴の奏

品川鈴子選

ゴーグルを掛けて庭掃く花粉症 京都 中崎 敏子

白寿逝く菜飯ふるまう顔のまま

田続きにガイドも眠る春のバス

四月馬鹿「ヌエー」と羊のぬいぐるみ

砂文字を遅日の須磨に残しけり 兵庫 中村 碧泉

須磨琴に寿永の春を偲びける

金粉のミモザを浴びし風化仏

おぼろ月猫に門限なかりけり

寒戻り妻不得手なる家事整理 兵庫 村田とくみ

磯遊び見ゆる病室四人部屋

ついつい買ふ有田ガラスのひねり雛

啓蟄のけふ雨風の激しかり

病持つ友の歩みで花見せり 兵庫 井上加世子

空見えず地も見えずして桜花

身一つの行末計る四月馬鹿

花枝を啄み合ひて番ひ鳩

竹の秋軽い目暈の緋のブルゾン 大阪 井上あき子

春風邪に無用の肘の置きどころ

泰西画もどきのポスター梅雨の駅

草田男の虚子の碑に会う花の寺

取つときの薬酒で春風邪一蹴す 大阪 北川 光子

若者は軍靴思わせ春の泥

駅長も涙目にして花粉症

爪立ちて少女は灌ぐ花祭

一片の木の葉手櫛に春疾風 愛媛 羽生きよみ

崩れても其れも見飽きぬ牡丹なり

手一杯散りし牡丹をもて余す

花冷を言い訳にして遅刻する

恐竜の里に吊り橋花つなぐ 兵庫 岩木 眞澄

くじびきの行列にいる花の下

かたくりにはいつくばりてカメラン

春愁や写経の墨の淡くして

綿菓子に落花とどまる河川敷 兵庫 岩田登美子

眠れるも談笑もあり花むしろ

# 秀 鈴 記

巻頭 三句 品川 鈴子 評  
四句〜十五句 宮 原 利 代 〃

\*選句は全て 品川鈴子

ゴーグルを掛けて庭掃く花粉症 中崎 敏子

ゴーグルと言うのは、一般には登山、スキー、水泳など野外スポーツに用いて、防風とか紫外線や水しぶきを避ける眼鏡です。庭木などの花粉にもアレルギーの過敏症で、悩まされる季節が到来して、作者が思いついた妙案。ものものしいでたちで庭掃除に励む姿を、誰かが垣間見たらびつくりするでしょう。ちよつと宇宙飛行士みたいで…

金粉のミモザを浴びし風化仏 中村 碧泉

雨風に曝されて目鼻も定かでない路傍の石佛は、もう忘れられて崩れゆく一方。ところが傍にミモザの原木が枝をさしのべ、黄色い花がたわわに咲いた。その蕊から金粉をたっぷり振り撒くと、風化仏はにわかに目を見張るように塗り替えられ、まるで金泥仏のように、注目をあびるひととき。

磯遊び見ゆる病室四人部屋 村田とくみ

入院暮らしも順調な快復期で四人の相部屋となれば長閑なもの、しかも窓から浜辺が見渡せる。貝など掘る家族連れの様子を眺めては、やがて自分もその一員になる日ところ待ちに、夫々静養している仲間。

空見えず地も見えずして桜花 井上加世子

桜花は花万朶と言うように満開になれば一点の隙も無く、上を仰げば天見えず、散れば地面一面隙間無く敷き詰めて土を見せないのである。此のお句桜花の潔さを適切に詠んでますところに強く引かれました。

泰西画もどきのポスター梅雨の駅 井上あき子

泰西画とは西洋の名画、梅雨の何と無く鬱陶しい駅、身

体もだるい、気も重い作者。元気が湧くような色彩鮮やかなポストターに目が止まり一気に梅雨の鬱陶しさが吹きとばされました。泰西画もどきの「擬き」とは似ていると言う事、此のもどきを上手に使って一句が引き締まりよい句となりました。

取つときの薬酒で春風邪一蹴す

北川 光子

何処のお家でも頭痛には腹痛には此の薬が良いと言う妙薬があります。北川様のお家にはご自慢の出来る薬酒がありとの事、春の風邪は質が悪く長引くと言われますが、薬酒を服用して大事に至らずよかったですね。私達も此のお薬のように作句もすぐに上達したらよいのと思います。

花冷を言い訳にして遅刻する

羽生きよみ

大事な集まりか、好きな俳句会か遅刻してしまった。其の言訳に花冷（余寒）の為と詠んでいます。出掛けにお客様がお見えになったのか、それとも今日は何となく肌寒い

ので此の服装ではと迷いになって遅刻したのかしら。私の後者の方で女性らしく服装にお迷いになったと思いたいです。花冷を言い訳した事、頭よいですね。

かたくりにはいつくばりてカメラマン 岩木 眞澄

片栗の花は地上十五糎位に鐘形紅紫色の姫百合に似た花。群生して咲いていても何と無く可憐な花で、誰しも写真に撮りたい花である。カメラマンなら尚更花に接近して撮影したい。はいつくばつてと言うところ、カメラマンの必至さを良く現した一句に仕上がりました。

眠れるも談笑もあり花むしろ

岩田登美子

花見狩の人それぞれの様子をうまく捉えたお句。一筵は女性が賑々しくおしゃべりをしている。其の横ではお酒に酔って眠っている漢の人。此の対照まことに妙があります。おしゃべりしている人眠っている人も、今日一日は最高のお花見であった事でしょう。（以下略）